

<p>(5) 総合型地域スポーツクラブについて 総合型地域スポーツクラブの育成にあたっては、クラブを牽引する人財面と事業継続のための財政面の課題がある。継続するために有効な方策の立案に取り組むこと。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 既存の総合型地域スポーツクラブの充実を図るべく、平成27年度から総合型地域スポーツクラブの会員が学校施設を使用する場合、無料(非会員は500円)とする支援を行っていく。併せて会員増加にも繋げていく。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 総合型地域スポーツクラブの課題解決のためには会員の増加が重要であるため、総合型地域スポーツクラブ間での合同イベント等、幅広い市民にとって魅力的なイベントを実施し、クラブの活性化を図っていく。</p>

【図書館】

<p>共通(1) 財産管理について<所属長の抽出実査と記録保存の徹底> 所属長は、抽出実査により紛失の有無や品質保持の確認を行うこと。併せて、実査を実効あるものとするため、実査した記録(日時、対象、数量、特記事項、担当者・所属長の確認印など)を文書にして残すこと。さらに、毎年度決算における在庫数量を保証するため年度末においては、必ず台帳との数量突合を行うこと。【改善事項】</p>	<p>【 措置済 】 平成27年 3月30日 現品確認及び所属長による抽出実査について、その記録を清書することなく確認記録そのままに保存するよう改めた。年度末においては、今後も台帳との数量突合を行う。</p>
<p>共通(2) 委託契約について 委託料の内容について、きめ細かい精査や委託先と対等に交渉ができるよう、専門的技術、原価計算や法律解釈などについての知識及び交渉能力を身につけた実務能力の高い職員を育成し、安易な委託の防止や委託コストの合理的圧縮など、より無駄のない委託コストの実現に積極的に取り組むこと。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 委託料の内容について、知識や実務能力を高めるよう日々研鑽し、より無駄のない委託コストの実現に努める。</p>
	<p>【 措置済 】 平成28年 2月10日 今後の委託契約については、その発注に向けて、法的解釈をはじめとする調達契約事務の知識を習得するとともに、過去の入札・見積り合わせ結果の分析、複数業者とのヒアリングやその見積金額の比較検討、そして入札参加業者数の拡大検討、また他部局における同種業務との比較検討、仕様書の精査などを行い、より無駄のない委託コストの実現に常に積極的に取り組むことを徹底した。</p>

<p>共通（４）主要事業の目標設定と評価について 業務棚卸表は組織の任務目的を明確にし、目的達成に必要な基本的な手段を記述したもので、成果・活動指標の目標年度、目標値を設定し、その達成度によって手段の有効性等の評価を行うものである。しかし、目標値の設定にあたり客観性に欠けると思われるものが見受けられる。目標値の達成を図るため、職員一人ひとりの具体的な取組が反映される項目を所属としての目標として設定すること。併せて、目標とした根拠や目標値の計算基礎を明確にすること。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 任務目的である「使いやすく居心地の良い図書館」を目指すうえで「図書館利用者数」「貸出冊数」は客観的な数値目標と考えるが、個々の具体的な取組みがより反映されるような目標値の設定についても検討を続ける。</p> <p>【 措置済 】 平成28年 2月10日 成果・活動指標については、目標とした根拠や目標値の算定基礎を明確にし、より客観性のある目標値の設定に努めた。 また、幅広く豊富な蔵書を充実のうえ貸出を促進するという手段では、幅広いジャンルより選書を行って豊富な蔵書数とすること、レファレンスや閲覧環境の提供、移動図書館での巡回を通して貸出を促進することという職員一人ひとりの取組み内容が貸出冊数の増加に反映されるよう見直しを図った。</p>
<p>共通（５）内部事務管理について 所属長は、「定められたルールに基づいた事務執行」や「上位職による牽制やサポート」の重要性を職員に意識づけし、日常的に確認すべき事項の定型化による業務精度の向上、上位職によるダブルチェックを行うなど、内部事務管理の改善を図るとともに、組織としてのマネジメントを徹底すること。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 定められたルールに基づく事務執行に努め、上位職によるダブルチェックを行うよう意識づけを行う。</p> <p>【 措置済 】 平成28年 2月10日 平成27年4月17日及び8月4日に日常業務の点検と適正な事務の執行や適正事務の手引に関して職員に徹底し、また朝のミーティングにおいて随時、館長から内部事務管理に関する事項について徹底を図った。その中において、レ点チェックの記入、係長や副館長、館長による複数チェックも徹底した。</p>
<p>(1) 新図書館整備について 新図書館の構想に当たっては、人口の減少や書籍の電子化、インターネットの普及など環境の変化や図書館機能のあり方など、他市の状況を参考にしながら十分に議論し、取りまとめること。【要望事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 新図書館の構想について、先進例など情報収集を行い、様々な角度から今後の図書館のあり方について研究に努める。</p> <p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 新図書館の構想について、他市図書館や最新の図書館設備等の情報収集を行うとともに、新図書館が備えるべき機能等を研究するなど、様々な角度から今後の図書館のあり方について研究に努める。</p>

<p>(2) 図書館サービスの向上について 本の案内表示を工夫してわかりやすくすること。また、館内では、声をかけて案内するなど、サービスの向上により一層努めること。 【要望事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 館内の案内表示や声掛けなど、利用しやすい図書館を目指し日々業務を行っている。本の案内表示については、今後も利用者の目線で検討を続け、過不足なく行っていきたい。</p>
	<p>【 措置済 】 平成28年 2月10日 本の案内表示について点検し、その活用を図ること、また司書によるレファレンス（本探し相談）をはじめとして積極的に声掛けをするように徹底した。また、広報紙にもレファレンスについて掲載した。</p>
<p>(3) 図書以外の資料の保管について 図書館で保管するものとして、地図や図面があるが、電子化するなどして、調査や活用がしやすい環境を整えること。 【改善事項】</p>	<p>【 検討中 】 平成27年 8月10日 保存していく資料として、地域資料の電子化について研究を行う。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 市立図書館で保存すべき貴重資料のうち地図や図面に関して、その保存方法と閲覧方法等について他市の状況や電子化システムの状況等を調査検討している。</p>

【博物館】

<p>共通(1) 財産管理について<所属長の抽出実査と記録保存の徹底> 所属長は、抽出実査により紛失の有無や品質保持の確認を行うこと。併せて、実査を実効あるものとするため、実査した記録（日時、対象、数量、特記事項、担当者・所属長の確認印など）を文書にして残すこと。さらに、毎年度決算における在庫数量を保証するため年度末においては、必ず台帳との数量突合を行うこと。 【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 平成26年度は、リニューアル工事期間であったため、年度末の数量突合が困難なことから、7月に数量突合と所属長実査を並行して実施した。今後においても、所属長による抽出実査と、年度末の数量突合を確実に実施するとともに、記録保存を徹底し、財産の紛失防止と品質保持に努める。</p>
	<p>【 措置済 】 平成28年 1月26日 所属長による抽出実査を平成27年12月26日に博物館、平成28年1月26日に楠歴史民俗資料館において実施した。引き続き、財産の紛失防止と品質保持に努める。</p>

<p>共通（２）委託契約について 委託料の内容について、きめ細かい精査や委託先と対等に交渉ができるよう、専門的技術、原価計算や法律解釈などについての知識及び交渉能力を身につけた実務能力の高い職員を育成し、安易な委託の防止や委託コストの合理的圧縮など、より無駄のない委託コストの実現に積極的に取り組むこと。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成 27 年 8 月 10 日 委託契約の内容、金額等の精査については、職員の資質・技能等のスキルアップが図られるよう、複数の職員で吟味するとともに、教育施設課をはじめ本庁内の技師にアドバイスを求めるなど、契約内容等の妥当性を見極めるよう努めている。また、今後は、価格交渉に必要な原価計算能力等資質向上に向けて、建設物価版などのコスト計算図書の見方などについて、職員間での情報共有に努める。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成 28 年 2 月 10 日 委託契約の内容、金額等の精査については、調達契約課に相談の上、類似事業の経験がある所属に問い合わせ、仕様の見直し・補充を行った。また、下見積書をもとに、価格交渉をおこなうため、建設物価版により単価の確認をするなど、比較検討を行った。引き続き、実務に合わせて職員間での情報共有に努める。</p>
<p>共通（３）労務管理の徹底と時間外勤務の縮減について ア 時間外勤務が恒常化しており、年間 360 時間を超える職員が多く見受けられた。所属長は、職員の健康管理の面から、時間外勤務は本来縮減すべきものであることを強く意識して、業務管理を行うこと。また、特定の職員に業務が集中しないよう、係間での応援体制や事務分担の適正化、平準化を図るとともに、工夫を凝らして業務の効率化、省力化を進め、時間外勤務を縮減すること。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成 27 年 8 月 10 日 平成 25 年度は、通常業務に加え、リニューアル事業が発生したため、全体的に時間外勤務が増加したが、平成 26 年度は、リニューアルに伴う長期休館により通常業務分が減少した。リニューアル後は、特定の係、職員に時間外勤務が増加する傾向にあるため、各職員間の業務分担の平準化を図るとともに、係を越えて協力する体制をとる取り組みやボランティアによる解説やイベントの支援を行っている。今後も事務分担の適正化と効率化を図り、時間外勤務を縮減し、職員の健康管理に努める。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成 28 年 2 月 10 日 時間外勤務の恒常化を未然防止するために事前申請を徹底するよう、朝礼において注意喚起している。平成 27 年度上半期は、通常業務において一人当たり月平均時間外数が 42.7 時間と前年同時期と比べて 32.9 時間増え、特定の係、職員に時間外勤務が偏っていることに対しては、時間外勤務の縮減と職員の健康管理の面から、引き続き事務分担の適正化と効率化に努める。（参考：平成 25 年度同時期は 38.5 時間）</p>

<p>共通（５）内部事務管理について 所属長は、「定められたルールに基づいた事務執行」や「上位職による牽制やサポート」の重要性を職員に意識づけし、日常的に確認すべき事項の定型化による業務精度の向上、上位職によるダブルチェックを行うなど、内部事務管理の改善を図るとともに、組織としてのマネジメントを徹底すること。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成 27 年 8 月 10 日 平成 27 年 5 月 14 日の博物館全体会議で、所属長による「事務の適切な執行について」と題した研修会を実施した。また、その後の事務執行で不備、不適切な事例があった事案等については、本人への指導だけでなく、朝礼時に副館長補佐から伝達している。</p> <p>【 継続努力 】 平成 28 年 2 月 10 日 不適切事案が発生した場合は、朝礼時に伝達することとし、引き続き内部事務管理の徹底に努める。</p>
<p>(1) 契約事務について 博物館設備管理業務委託の仕様書において、冷凍保安責任者は、「第一種及び第二種冷凍機械責任者」の資格を有するものと記載されているが、有資格であることを確認できる書類が添付されていない事例が見受けられた。確認できる書類を徴収し保管すること。【改善事項】</p>	<p>【 措置済 】 平成 27 年 3 月 5 日 監査対象年度である平成 25 年度については、平成 25 年 4 月 11 日付「四日市市立博物館設備管理業務委託における有資格者一覧」に記載の内容が、前年度までと同一であったため、平成 23 年 11 月 7 日付三重県知事への届出書をもって確認としていた。前年度までと同一であっても、契約の都度、有資格の確認を行うこととし、事前調査を受けた平成 26 年 10 月 10 日付けで受託業者から徴収し、関連書類として保管した。また、平成 26 年度は、年度途中で有資格者に異動があったため、平成 27 年 3 月 5 日に三重県知事への届出書の写しが提出され、保管した。</p>
<p>(2) 学芸員について ア 博物館には、歴史、美術工芸の学芸員しか配置されていないが、より高度な企画、研究、運営のため、市全体の問題として、他分野の学芸員を確保し、博物館としての体制を整えること。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成 27 年 8 月 10 日 郷土の先人が創り出した文化遺産や知識を、確実に次の世代に引き継いでいくためには、収蔵品等を調査研究し、保管、展示することが必要である。文化遺産や知識の分野は広範囲に及ぶことから、様々な分野の学芸員が必要であることは認識しているため、計画的な学芸員の増員、確保を要求している。</p> <p>【 継続努力 】 平成 28 年 2 月 10 日 文化遺産や知識の分野は広範囲に及ぶことから、様々な分野の学芸員が必要であるため、計画的な学芸員の増員、確保を引き続き要求する。</p>

<p>イ 学芸員として、専門能力が有効に活かされるようプロフェッショナルとしての格付けについて検討し、その専門性が十分発揮できる組織体制となるよう見直すこと。【改善事項】</p>	<p>【 検討中 】 平成27年 8月10日 博物館の重要な業務の一つである「資料を歴史的、文化的背景のもとに正しく位置づけ、系統的に整理して、教育活動の素材とするような調査研究」は、学芸員ならではのプロフェッショナルさが肝要である。そうした役割を認識し、その学芸員の専門性が活かされるよう、引き続き計画的な増員に努め、組織の中における学芸員の職階を含めた位置付けを確立していきたい。</p> <p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 学芸員の専門性が活かされるよう、引き続き計画的な増員に努め、組織の中における学芸員の職階を含めた位置付けを確立していきたい。</p>
<p>(3) ボランティアの活用について 来場者の案内などにボランティアを活用しているが、助言や調査研究などにも協力してもらえようボランティアの裾野を広げる取組みに努めること。【要望事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 ボランティアは展示解説を中心とした博物館ボランティアの他に、古文書資料の解説を行う古文書ボランティアが活動中である。古文書ボランティアは6人で、月に2回解説を進めているが、高齢化が進んでいるため、古文書ボランティアの養成を兼ねて、教育普及事業として毎月1回「古文書で知る江戸時代」を実施している。 天文ボランティアには、移動天文車きらら号を活用した観望会において、小型望遠鏡の操作や解説を担ってもらっている。この他にも、市民を対象とした天文教室「ガリレオ教室」では、企画や資料の作成に協力してもらい、天文ボランティアの活動の場を広げた。</p> <p>【 措置済 】 平成28年 2月10日 博物館ボランティア養成講座を実施するとともに、「古文書で知る江戸時代」を通じて古文書ボランティアの養成を図った。平成28年度には天文ボランティアの養成を予定している。また、ボランティア活動に関して、広報よっかいちに掲載を行ったり、三重県社会教育委員北部ブロック研修会で博物館内におけるボランティア活動をテーマに議論する場に当館の博物館ボランティア、天文ボランティアに参加してもらった。また、「ちゃんねるよっかいち」において博物館でのボランティアの活動を取り上げていただくなど、ボランティアの活動を多くの市民に知っていただいた。今後も引き続き、ボランティアの裾野を広げる取組みに努める。</p>

<p>(4) 博物館のPRについて ア 博物館の認知度や注目度を上げるためのPRの手法について、メディアの活用を含め、来館者を増やす広報活動を行うこと。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 今回のリニューアルにより、四日市公害と環境未来館が併設したことから、過去、現在、未来をつなぐ施設となった。従来のPR先に加え、旅行会社や多くの教育機関や学校等に対して、学習旅行や社会見学としての活用の周知に努めている。また、リニューアルを契機として、テレビやラジオなどのマスコミ関係にも生放送や中継場所としての活用や、情報雑誌の掲載などにより、本市の見どころのひとつとして市外にも広く広報されている。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 現在、テレビやラジオでの放送、情報雑誌への掲載は順調に伸びている。平成27年10月に、四日市公害と環境未来館・博物館・プラネタリウムを「そらんぼ四日市」と名付け、本市の新たな魅力、地域資源となったことも併せ、四日市の歴史や文化、産業と環境、また宇宙や科学に関する総合的な情報を発信する本市のシンボル施設として、市内だけでなく、県内及び東海地方からの社会見学や全国からの修学旅行を誘致して、未来を担う子ども達へのシティプロモーションにも取り組んでいる。</p>
<p>イ 展覧会等の企画の意図や良さが、来場者にうまく伝わるよう展示の方法を工夫するなど、来場者の感銘度を高め、何度でも観に行きたい、人に勧めたいと思えるような博物館を目指すこと。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 常設展示は、従来の展示ケースの中に資料を並べる形式ではなく、四日市の各時代を象徴する建物・人物を原寸大で再現することや季節によって展示替えを行うなどによって、四日市の歴史を体感することができる展示とした。特別展示においても、企画の意図などを伝えるよう工夫している。また、ボランティアによる解説を加えることで、来場者の感銘度をより高め、来場するたびに新しい発見ができるよう努めている。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 特別展示においては、展示方法だけでなく、ポスターやチラシという広報段階から企画の意図などを伝えるように意識したつくりが心にかけている。展覧会の会期中には、ギャラリートークを開催し、来場者と一緒に展示室を歩きながら、展示物の見どころや観覧に役立つ楽しいエピソードなどを話すことで、ギャラリートークを聞いた後にもう一度念入りに観覧する来場者も見られ、観覧意欲を高め観覧時間を長くし、満足度を高めるよう努めている。また、ボランティアの日頃の体験・経験を生かすようなスキルアップ研修を重ねることで、来場者の感銘度をより高め、来場するたびに新しい発見ができる案内ができるよう努めている。</p>

<p>ウ 収蔵品のデータベース化とホームページによる公開について、既に取り組みを始めており、当博物館の価値ある収蔵品をより多くの人に知ってもらうための有効な手段と考える。多数の収蔵品を観る機会を増やし、来場者数の増につながるようホームページの掲載内容や構成について工夫すること。また、収蔵品の展覧会について魅力ある企画に取り組むこと。 【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 収蔵品のうち、美術工芸品などを中心にホームページに公開する準備を進めており、一部を秋までに公開する予定。収蔵品は、常設展内のギャラリー（白里亭）にて公開する計画で、平成27年度は4回の展示を実施予定。企画展においても、館蔵資料を中心にした展覧会を平成27年度は3回計画している。</p>
<p>(5) プラネタリウムについて ア 番組の企画について、アニメ番組中心ではなく様々な年齢層のニーズに合うよう魅力ある番組構成に努め、来館者を増やすような工夫をすること。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 秋の公開には間に合わなかったが、収蔵品のうち、美術工芸品などを中心にホームページに公開する準備を順次進めている。収蔵品は、常設展内のギャラリー（白里亭）にて平成27年度は3回の展示を実施し、残りの1回を2月20日から実施予定である。企画展においても、館蔵資料を中心にした展覧会を平成27年度は3回行った。引き続き収蔵品を公開する機会を増やすよう努める。</p>
<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 年齢層のニーズに合わせて、一般番組（宇宙科学番組）、ファミリー番組（アニメ番組）、星空番組（自主制作番組）の3種類の番組を投映している。平成27年度夏番組については、ファミリー番組で環境未来館の特別展示に合わせた内容とし、来館者の増を図る。また、一般番組では、宇宙をテーマとした内容とし、最先端の天文学に触れる魅力ある番組とする。また、星空番組では、1か月半毎に一部内容や音楽を変更し、リピーターを増やす工夫を行っていく。</p> <p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 様々な年齢層のニーズに合うように、また、季節やその年の天文イベントとして話題となる事象を意識した番組構成とし、4季×3種類の年間12番組としている。今後も引き続き、来館者アンケートによりニーズの把握に努めるとともに、「ワクワク感」のある番組選定を心がけて来館者を増やす工夫を行う。また、星空をより身近に感じていただくよう、四日市の星空を撮影するなどして、職員による自主制作番組にも積極的に取り組んでいる。</p>	

<p>イ 博物館のPRとして、話題性のある短時間番組を作成し、PR方法の見直しを行うとともに、当市のプラネタリウムの知名度を上げる取り組みを行うこと。【要望事項】</p>	<p>【 検討中 】 平成27年 8月10日 3年前から四日市観光ユーモアCMの「いいね！四日市」シリーズにラインナップして映像によるPRに努めているが、リニューアルに伴い、四日市公害と環境未来館を併設したことから、映像を更新のうえ、本市のシティプロモーションの一環として、市内外の場での積極的な活用を検討したい。 また、プラネタリウムは、最新の技術を取り入れた機器を導入したことから、天文関係の雑誌はもとより、旅行雑誌やタウン誌など、幅広い層に見知っていただく機会を設けている。今後は、この最新式のプラネタリウムをPRする短時間番組を作成したので、ホームページや市内のデジタルサイネージに活用するなどの取り組みを行う予定である。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 リニューアルに合わせて作成したPR番組を活用し、三重テラスでシティプロモーション活動を行った。今後も積極的に活用し、当プラネタリウムの知名度を上げるよう努める。</p>
<p>(6) 博物館のリニューアルについて 平成27年3月には、「四日市公害と環境未来館」の開館と併せて博物館もリニューアルオープンする。博物館、プラネタリウムと「四日市公害と環境未来館」の役割を持ち合わせた施設として、相乗効果を発揮し有効に活用できるよう環境部と連携し企画運営に取り組むこと。【要望事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 平成27年度には、従来博物館として開催していた昆虫に関する展覧会を、四日市公害と環境未来館が行う初の展覧会として、両館が協力して企画し、昆虫を通して環境を考えるというテーマで「大昆虫博」を実施している。今後も、両館の特色を生かしつつ、相乗効果を発揮できる企画運営に努める。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 学習支援展示などにおいて、両施設を1つのテーマで観覧できるよう、展示に工夫を加えている。今後は、定期的な企画会議を設けるなど、引き続き両館の特色を生かしながら、相乗効果を発揮できる企画運営に努める。</p>

<p>(7) 資料の収集について ア 収集の位置づけを明確にし中長期的な収集を進めるため、市民からの寄贈についての条件、基準を条例又は規則、要綱などに定めた上で、収集に努めること。【要望事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 博物館の資料収集方針については、開館以来、本市の歴史を明らかにする資料を集めるという方針であったが、当館の使命を達成するために必要なものについても収集するという方針を昨年5月に資料委員会に諮り、改正した。市民からの寄贈については、重複するもの、保存状態の悪いものなどは受け入れられないが、貴重な資料等については受け入れている。</p>
	<p>【 措置済 】 平成28年 2月10日 四日市市立博物館資料収集方針にのっとり、引き続き資料収集に努める。</p>
<p>イ 資料の収集にあたっては、博物館のコンセプトの下、目標を持ち、より良い資料の収集に努めること。【要望事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 資料収集方針に基づき、質・量ともに充実させていく。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 四日市市立博物館資料収集方針にのっとり、引き続き質量ともに高い資料収集に努める。</p>
<p>【8】博物館の経営について 博物館の運営を維持するためには、展示や物品の管理、収入増の取組など経営感覚が必要である。定期的に収入減、費用増などの異常値を把握することで、早期に対策を講じることができる。定期的な部門ごとの収支報告書を作成するとともに、検討会を行い、数字に基づいて運営管理を行うこと。【改善事項】</p>	<p>【 検討中 】 平成27年 8月10日 現在、特別展や企画展については、収支報告書を作成し、運営管理を行っている。経営的観点からも健全な館運営に努めるため、この取り組みを博物館全体に広め、四日市公害と環境未来館を含めた部門ごとの収支報告書の作成に取り組む。</p>
	<p>【 検討中 】 平成28年 2月10日 リニューアル初年度の決算である平成27年度決算を活用し、今後、具体的な部門別収支報告書の作成に取り組む。</p>
<p>【学校教育課】</p>	
<p>共通(1) 財産管理について<所属長の抽出実査と記録保存の徹底> 所属長は、抽出実査により紛失の有無や品質保持の確認を行うこと。併せて、実査を実効あるものとするため、実査した記録(日時、対象、数量、特記事項、担当者・所属長の確認印など)を文書にして残すこと。さらに、毎年度決算における在庫数量を保証するため年度末においては、必ず台帳との数量突合を行うこと。【改善事項】</p>	<p>【 継続努力 】 平成27年 8月10日 抽出実査を実施するよう努める。併せて実査記録を文書に残すとともに、年度末には、在庫数量を保証するため、台帳との数量突合を行うよう努める。</p>
	<p>【 継続努力 】 平成28年 2月10日 平成27年度は抽出実査を実施し、併せて実査記録を文書に残した。平成27年度末には台帳との数量突合を行うよう努める。</p>